

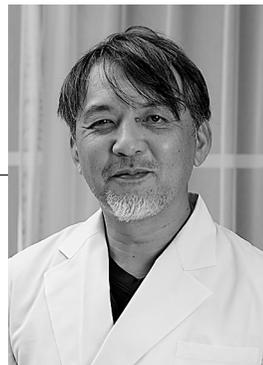
◎注目医療 2019

痔 肛門疾患治療

患者さんの痔の状態を見極めて 好適な治療を提供する

医療法人一誠会
川崎胃腸科肛門科病院

平成29年度に痔核手術541件、痔瘻手術226件、肛門狭窄・慢性裂肛手術46件という痔の手術実績を持つ川崎胃腸科肛門科病院。ALTA療法、切除術、併用療法を用いて、痔核の症状に応じた治療法を行っている。



院長 川崎 俊一

かわさき・しゅんいち / 1995年東京医科大学卒業。99年博士号取得、同大学外科学第四講座臨床研修医として勤務。2014年から現職。日本外科学会認定外科専門医、日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医。

手術適応患者は外来の1割 治療の見極めを重要視

川崎胃腸科肛門科病院は茨城県日立市で消化器・肛門疾患に強みを持つ専門病院。肛門疾患で来院する患者で

多いのが痔核で70%弱。特に外痔核の中に血の塊ができる血栓性外痔核(急性のいぼ痔)の患者が多い。次いで裂肛(切れ痔)と痔瘻の患者で各々15



レーザーを使用した胃及び大腸の内視鏡検査を実施。CTでは大腸内部(粘膜表面)も詳細に再現する。



同院には45床あり、手術後には病棟担当の看護師が回復をサポートしている。

者で各々15%ほどである。「血栓性の外痔核は服薬、軟膏使用、便通コントロールで治る事が多いです。なかなか治癒しない、痛みが薬で治まらない場合には、早めの手術を考えます。裂肛も固い便を軟らかくする薬の服用などで治しながら、切れにくくしていく保存治療がメインになります」と語るのは川崎俊一院長。裂肛の慢性化により、見張りイボという膨らみができたり、上皮が硬くなつて裂肛を繰り返す場合は、手術が必要になることもある。

薬で治すのか、手術で改善するのか、その見極めを重要視しており、手術適応は外来患者の1割弱だという。

手術をする患者は、痔核が7割、痔瘻が2割、裂肛が2%ほど。最も多い痔核の手術は切除術で

さらに併用療法は大きく分けて二つの方法があり、「二つは痔核の位置により、内痔核主体の痔核はALTA療法で治療し、外痔核も腫れている痔核は切除術で治療する方法です。もう一つは内痔核から外痔核まで腫れている場合で、ALTA療法が効きにくい外痔核部分は切除し、内痔核部分

ALTA、切除術、併用を駆使 痔核の状態に合わせて対応

法としては、痔核を切除せず、局所注射で硬化・縮小させるALTA療法、切除術(結紮切除術)、及び両術法を組み合わせた併用療法のどちらかで行う事が多い。

はALTA療法を行う方法です。この方法は手術による傷が小さくなり、出血などのリスクを下げる事ができるのです」同院では積極的に併用療法を行っている。

川崎院長は痔に悩む患者さんにとって「出血があったら痔のせいと決めつけるのは良くない。大腸がんや直腸がんによる場合もあるので、自分で判断しないで、病院でしっかり見てもらうことが大切です」

同院では肛門疾患に付随して便秘や慢性便秘の治療も行っており遠方からの来院もある。また分院「みと肛門クリニック」では、日帰りが可能な切除術や注射療法を行っており、入院が必要な場合は本院と連携し、術後フォローにきめ細やかな対応をしている。



川崎胃腸科肛門科病院
〒316-0002 茨城県日立市
桜川町3-3-19
TEL.0294-36-1800
http://www.kawahp.net/

みと肛門クリニック
〒310-0852 茨城県水戸市
笠原町978番27 IPICビル2F
TEL.029-291-3411
http://www.mitokomon.net/

Hospital Data

Clinic Data